

平成30年度

熊本大学理学部同窓会報

印刷・発行 令和元年5月

熊本市中央区黒髪2丁目39番1号

熊本大学 理学部同窓会

印刷 小野高速印刷(株)

会報発行に当たって

同窓生の皆様にかかれましては、日々ご健勝のこととお慶び申し上げます。今年「平成」最後の年度ということもあり、縁起担ぎも含めて何でも「平成」に詰め込もう的活動と相まって、慌ただしくも過ぎ去ってしまった感が拭えません。大学では現状維持は一步後退と見なされ、これまで以上に改革・評価の嵐が吹き荒れ、理学の教育研究に集中させてもらえない環境へと変わってしまいました。国から来る大学の活動資金である運営費交付金は平成16年の国立大学法人化以降、毎年削減され、教育研究を行うに当たっての研究活動資金は決して十分ではない状況が続いています。さらに追い打ちをかけるように、この運営費交付金の目減り分を教員の定員削減で補おうという究極の手段が用いられ、残された教員一人にかかる教育研究の負担は以前に増して数段に増え、理学部の教員は益々余裕のない環境に晒されています。平成16年の国立大学法人化の折に本学は研究大学へと舵を切りました。それによって、研究偏重の評価が先行し、教育に関する評価は難しいとしてほとんど問題にされておられません。理学部の教員は教養教育における自然科学分野すべての科目を全学の学生に対して提供しており、本業の理学部および大学院自然科学教育部理学系の専門科目を担い、学部4年生から大学院生までの先端科学研究の指導も活発に行なっております。教員の研究評価は自身の研究内容を査読ありのインパクトファクター（IF）付き国際学術雑誌にどれだけ英語論文で発表したかで決まり、大学はそれに加えて発表した学術論文をもとにどれだけの研究費を外部から本学にもたらしたかで評価します。これに対して、教育評価は漠然としており、学部によって学生の教育目標が違うので取扱いが異なり、教員の個人差も甚だしく、手をつけがたいというのが大学執行部の言い分でしょう。しかし、医学部や薬学部、工学部、さらに教育学部などは技術開発や技術者養成が元々の目的であり、理学部のように自然科学という学問を追求する大学本来の研究教育を目的とする学部とは大いに異なり

ます。従って、技術系の学部では研究評価に重きが置かれるのは当然ですが、理学部では研究評価に加えて教育評価は極めて重要な総合評価の指標となり、これを行なうにはどうすれば良いか、大学としては大いに議論すべきでしょう。何れにしても、「見える」教育評価を可能にしなければなりません。外部資金を獲得しやすい3年や5年の短期技術開発型研究プロジェクトは、息の長い学問研究を旨とする基礎的理学研究には不向きです。かと言って、学生の教育に力を注いでも十分に評価されない、理学部の教員にとっては忌々しい今日この頃です。

さて、平成30年4月4日（水）の入学式では、理学部に203名/定員200名、大学院自然科学教育部に（修士）88名/定員110名、同（博士）6名/定員12名が入学して同窓会準会員となりました。また、平成31年3月25日（月）の卒業式では理学士174名、修士理学79名、博士理学6名が卒業・修了予定で、新たに同窓会会員となります。毎年このことながら、新しい同窓生が着実に増えており、会員相互の絆もなお一層強靱なものにしていかなければなりません。今年度の大きな行事であった平成30年11月4日開催の「五中・五高・熊大130年を祝う会」（第五高等学校に設置された理科が理学部の起源）は大盛況のうちに終わり、理学部同窓会の基盤が一層固められました。平成31年度は新制大学理学部発足70年の節目にあたり、盛大な行事も予定されております。同窓会会員の皆様のご支援はもとより、今後とも益々のご指導とご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。次第です。

平成31年3月吉日

熊本大学理学部同窓会会長
熊本大学大学院先端科学研究部
基礎科学部門化学分野教授
西野 宏
(化学科第27回、昭和54年卒)

数 学 教 室

寒さがようやく和らぎ、春の訪れを感じ始めましたが、数学教室同窓会の皆様はいかがお過ごしでしょうか。熊本地震から早3年が経とうとしており、被災した大学の復興作業も少しずつ進んでいます。本年度は地震の影響で解体していた理学部教務のあった工学部1号館もほぼ完成し、生活環境も従来の形に戻りつつあります。同窓会の皆様に、数学教室の近況をご報告申し上げます。

まず、先生方のご異動について報告いたします。平成31年3月をもちまして井上尚夫先生が定年を迎え退職されました。井上先生は1981年に熊本大学の教養部に赴任され、その後1991年に理学部、2016年に大学教育センター、と約38年間に渡り熊本大学で教鞭を執られてきました。今後の益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

次に、学生の近況について報告いたします。現在、数学教室には3年生39名、4年生31名、博士前期課程24名、博士後期課程4名が在籍しています。昨年4月には例年通り、3年生の歓迎会が開催されました。数学教室内の交流が深まり、3年生が打ち解ける場ともなりました。専門科目の講

義が始まった3年生は学修室を活用し、協力して勉強しています。仲間の存在が勉強への励みともなり、多くの議論を交わしながら数学への理解を深めています。4年生は卒業に向け、セミナーの準備や卒業論文の作成を夜遅くまで取り組んでいます。また、卒業後の進路を決定し、各々の進路に向けた準備もおこなっています。そして、大学院生は、学部で得た知識を基礎としつつ、より専門的なことを学んでいます。自分で考えて自分で理解するということに苦戦しつつ、その一方で、理解できたときの喜びや数学の面白さも感じています。私も大学院生としてこれからも研究に精進していく所存です。

数学教室のさらなる発展のため、今後とも数学教室を見守り、またご指導いただければ幸いです。最後になりますが、数学教室同窓会の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

大学院自然科学教育部博士課程前期1年

井ノ口 鴻志

物 理 教 室

桜が咲き始め、暖かい季節となってきました。もうすぐやって来る新しい年度を前に、いかがお過ごしでしょうか。物理科学同窓会の皆様に、物理科学講座の最近の活動について報告をさせていただきます。

本年度、物理科学講座の在籍人数は、3年42名、4年生37名、博士前期課程35名、博士後期課程8名です（H30.5.1）。

8月に行われましたオープンキャンパスでは、各研究室が自分たちの研究室の紹介を行ったり、学生や保護者の方の質問に答えたりしました。研究の分野について深い興味を示してくれる高校生も多く、研究に関する説明にも熱が入りました。

また、11月には夢科学探検2018が開催され、そ

れぞれの研究室が地域の皆様に研究内容を紹介し、交流を深めることができました。また、演示実験に対して賞を戴いた研究室もありました。

今年に入りまして、2月には卒業研究発表会、修士論文発表会が行われました。それぞれの発表者が日々積み重ねてきた研究の成果を発表しました。

その他にも、新たに物理科学講座に加わる新3年生の歓迎会なども実施され、先輩や先生方、仲間と語り合い、これからの研究や学習について考えることのできる良い機会になったものと思います。

今年元号が新たに「令和」と決まり、また新しい時代が始まることとなります。平成28年に起こりました熊本地震からまもなく3年の月日が流

れることとなります。様々な方との協力により、震災前と変わらない生活、研究が送れるようになっております。

全国の物理科学講座の同窓会の皆様に、多くのご支援をいただいたこと、心より感謝申し上げます。過去を忘れず新たな時代に向かって一同努力

してまいります。今後とも同窓会の皆様方には、ご指導・ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、同窓会の皆様のますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。

理学部物理学コース4年 櫻田 拓弥

化 学 教 室

日増しに暖かくなってまいりましたが、いかがお過ごしでしょうか。同窓生の皆様に、理学部化学教室の近況をご報告申し上げます。

一学科制（理学科）となった今も化学の人気は高く、毎年多くの学生が化学コース（現在の正式名称）を志望します。平成30年度は、157名の学生（B3 46名、B4 45名、M1 28名、M2 27名、D1 4名、D2 2名、D3 5名）が在籍し、16名の教員による手厚い指導を受けました。私も、そのうちの一人として、有機化学を深く学ぶとともに、実験結果に一喜一憂しながら日々卒業研究に没頭しました。

化学コースには、学生と教員、学年や研究室といった枠を超えて交流を深める行事がいくつかあります。4月に行われる新3年生の歓迎会は、その最たるものです。理学部中庭に100名以上が集まり、食事をとりながら大いに語り合いました。9月に行われる毎年恒例のソフトボール大会は残念ながら雨天中止となりましたが、夕方には雨も上がり、みんなで中庭に集いバーベキューパーティーを楽しみました。このイベントは4年次の研究室配属を控える3年生にとって特に重要で、かつて私もそうしたように、興味をもった研究分野の先生や先輩に話しかける絶好のチャンスになっています。また、11月には「夢科学探検」が開催されました。これは、子供から大人まで、幅広い年代の方々に実験を通して科学の面白さを体験してもらう催しです。化学コースからは、「作ろう！君だけのCDコマ」、「君もできる有機合成 Part.13 “くすり” の合成」、「不思議がいっぱい！色と光の科学」、「ふしぎ！色が変わる花」など、工夫を凝らした演示実験が展覧され、当日は多くの参加者で賑わい、たくさんの子供たちが笑顔を振りまいていました。

残念なニュースもお伝えしなければなりません。12月初旬に、実験中の事故で実験室一つが全焼する火災が起きました。大きな被害が出ましたが、幸いけが人はいませんでした。学内外の様々な方々からの支援のおかげで、当該研究室の学生も含めて、2月の修士論文審査会および卒業研究発表会ともに無事終えることができました。現在、復旧に向けて作業が進んでおります。

化学コースの先生方に目を向けると、平成30年度は多くの人事異動がありました。まず、10月に石川勇人（いしかわはやと）先生が准教授から教授に昇進されました。石川先生は有機化学がご専門で、その熱心な研究姿勢と親身な指導ぶりから、学生からの人望が厚い先生です。さらに、3月には物理化学分野の准教授として上田顕（うえだあきら）先生が着任されました。化学コースにまた新しい風が吹こうとしています。一方、12月に無機化学分野助教の大谷亮（おおたにりょう）先生が退職され、九州大学へ准教授として転出されました。とても若く、学生に慕われていた先生であっただけに惜しい気もしましたが、明るいニュースであることに間違いありません。益々のご活躍が期待されます。

私は、この平成最後の年に32名の仲間と一緒に大学院修士課程に進学します。私たち学生は先生方と共に日々研究に勤しみ、化学教室、そして理学部の発展に貢献する所存です。今後ともご指導ご鞭撻賜りますよう、宜しく願いいたします。末筆ながら、皆様の益々のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

理学部理学科4年 護広迫 景裕

地球環境科学教室

満開の花びらに心浮き立つ今日この頃、地球環境科学講座同窓生の皆様いかがお過ごしでしょうか。同窓生の皆様に講座の近況をご報告いたします。

まず講座教員についてご報告致します。水循環・減災研究教育センター 減災型社会システム部門に所属されておりました長谷中利昭先生（火成岩岩石学・火山地質学）が退職なされます。その後任として教育学部から宮縁育夫先生（地質学・火山学）が着任されることとなりました。宮縁先生には地球環境科学コースで教鞭をとって頂きます。また、先端科学研究部に所属されていた尾上哲治先生（堆積学・古生物学）が九州大学に教授として転任なされます。

続いて学生の状況についてお知らせいたします。現在当講座では、3年生11名、4年生17名が、大学院生は留学生・社会人を含めて修士課程19名、博士課程9名の学生が在籍しております。4月には3年生を歓迎する新入生歓迎会、11月にはハン

マー祭が行われ、講座全体の親睦が深まったことを感じました。2月には卒論・修論発表会が行われ、学生は日々積み重ねてきた研究の成果を発表しました。先生方とも多くの議論が交わされ、講座全体にとって実りのある会となりました。

また、本年度は講座から21名の学生（うち修士5名、博士1名）が卒業・修了する予定となっております。学部卒業生のうち8名が就職し、7名が大学院に進学します。専門に関係する公務員や企業、その他幅広い分野に就職します。

今年は北海道地震や関西国際空港の大規模浸水など災害の絶えない年となりました。地球の活動とその影響を目の当たりにし、地球環境科学に関する研究の重要性をより一層感じています。最後になりましたが、同窓生の皆様のご健勝と益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

自然科学研究科博士前期課程1年 稲田 稔貴

生物教室

春の訪れを感じる季節となりましたが、生物教室同窓会の皆様はいかがお過ごしでしょうか。生物教室では新たに3年生59名を迎え、4年生58名、博士前期課程37名、博士後期課程7名、総勢161名が日々研究に邁進しております。

最初のご報告と致しまして、平成31年度3月をもちまして、高宮正之先生がご退職されました。高宮先生は、研究室の運営や講義、学生実習の実施に加えて、2010年以降、理学部副学部長、更には理学部長を務められ、2017年からは熊本大学附属図書館長を務められました。常に丁寧なご指導をしてくださり、学生一同、心より感謝致しております。今後も、高宮先生が心身共にご健康で活躍されますことをお祈り申し上げます。

次に、今年度の生物教室の公式行事に関しましてご報告致します。4月には、3年生の歓迎会が行われ、食事やレクリエーションを通して親睦を深めました。8月のオープンキャンパスでは多く

の方にご来場いただき、各研究室の特色を生かした催しを行うことで、生物教室の魅力を発信する良い機会となりました。10月に開催されました「夢科学探検」では、小学校入学前の子どもから大人まで幅広い年代の方を対象に、身近に潜む科学に触れることで科学の面白さを体験してもらい盛況を得ました。12月には3年生の研究室配属が行われ、研究室に新たな仲間を迎えました。3年生をサポートしつつ互いに切磋琢磨し、より一層研究を発展させていきたいと思っております。2月には卒業研究および修士研究の研究発表会が行われ、学部4年生、博士前期課程2年生がこれまでの研究の成果を発表しました。質疑応答では熱いディスカッションが繰り広げられ、研究の更なる発展が期待される充実した会となりました。そして、3月には卒業式が行われました。研鑽を積むべく進学する者も新社会人として歩み始める者も、熊本大学理学部生物教室での経験を糧に、今後、世

界を先導する人材として活躍することでしょう。

生物教室の更なる発展のために、今後とも、生物教室同窓会の皆様にはご指導、ご鞭撻いただきますと共に、変わらぬご支援の程よろしく願い申し上げます。

最後になりましたが、同窓会の皆様のご健勝と益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

自然科学教育部博士前期課程1年 岡田 咲耶

追悼 豊原富士夫先生



理学部理学科地球環境科学講座、豊原富士夫先生は、2015（平成27）年2月18日、ご逝去されました。

豊原先生は、東京大学理学部、大学院修士、博士課程を修了され、東京大学から理学博士の学位を授与されました。東京大学理学部助手を経て、1981（昭和56）年4月、熊本大学へ講師として赴任されました。専門は、構造地質学で、日本列島の古・中生代構造発達史や岩石の微細構造とその形成機構を主な研究テーマとし、多くの業績を残されました。野外でのフィールドワークを特に重視され、5万分の1表層地質図「砥用」「八代」「日奈久」などや、10万分の1熊本県地質図（2008）をまとめられ、それらは2016年熊本地震での復旧における地質コンサルタント業務などでも数多く活用され、熊本の地質学に多大な功績を残されました。

豊原先生といえば、当時先生が担当されていた必修科目の「地質図学」と「野外実習」が思い出されます。地質図学では、提出したレポートが添削の文字でいっぱいになりました。先生の独特な文字の解読には熟練の技が必要でした。野外実習では、愛車のサニーや大学のランドクルーザーで現地に向かい、ジョージアオリジナルを飲みながら、hi-lite（煙草）を啜っていました。岩石名を

尋ねると石をなめて判定します。笑い声は甲高く、「まったく、もうしょうがないんだから」と言いながらも嬉しそうに教えてくれる先生が思い出されます。

豊原先生は、2012（平成24）年3月に定年退官され、同年4月14日に熊本大学にて最終講義をされました。以下に、講義内容を記します。

最終講義「してん」

伝えたかったもの＝哲学

哲学universe 地質現象、自然科学、社会科学を如何に認識するか

傍観者であることは許されない ⇒自分の立つべき位置は自分で決める

すべての既成概念を否定せよ =自分の価値観を作る

基本的に自分の哲学によって決めるしかない

大学で最も大切なもの＝哲学 =価値観・人生観＝ものの考え方 =視点

大学：各自が自分の哲学をもつ入口にいざなう

人みな哲学は異なる ⇒自分の哲学をもちなさい、人の哲学を尊重しなさい

遺す言葉

大学人の方々へ 組織の論理は必ずしも正義とは一致しない

学生諸君へ 大学で教えてもらおうと思うなかれ みずから学べ

諸君へ 清く・貧しく・美しくそして 誠実に自分の哲学をもて 人の哲学を尊重せよ

豊原先生に心からの感謝と哀悼の意を表します。Mehr Licht!

2002年理学部地球科学科卒 梅崎 基考

平成29年度 会計報告

平成29年8月1日～平成30年5月31日

【平成29年度繰越】 ￥16,817,071
(化学実験場復旧寄附金 ￥1,018,000を含む)

【平成30年度繰越】 ￥16,375,374
(化学実験場復旧寄附金 ￥20,000を含む)

【収入】

会費納入	￥1,963,000
化学実験場復旧寄附金	￥144,140
カード手数料	￥1,318
小計	￥2,108,458

【支出】

平成30年度学部協力金	￥400,000
平成29年度同窓会報発行	￥772,679
化学実験場復旧寄附金	￥1,232,140
卒業生表彰祝い金	￥20,000
同窓会連合会会費	￥60,000
同窓会長活動費	￥59,800
振込手数料・通信費	￥5,536
小計	￥2,550,155

あ と が き

会員の皆様には、本年度もどうもお世話になりました。早速ですが、平成最後の庶務報告をいたします。

2018年4月4日の入学式において学部生203名、大学院生94名の新入生を迎え、平成30年度がスタートしました。7月には第5回九州連合同窓会が熊本で開催され、熊本地震関連の2テーマの講演がありました。また、大きなイベントとしてホームカミングデーでもある11月4日に、第五高等学校設立130周年記念式典と祝賀会が文・法・理学部同窓会合同で執り行われました。全国から多数の卒業生が参加され、学部の垣根を越えて盛会となりました。なお、本年度の卒業生表彰は、理学部からは入江照雄氏（生物学科昭和33年卒）と長谷義隆氏（地学科昭和41年卒）のお二人が受賞され、同日に表彰式が行われました。12月には第6回関西連合同窓会が大阪で開催されましたが、九州はもとより関西や関東でも活発に同窓

会活動が行われています。なお、九州連合同窓会の次期理学部役員には、引き続き内野明德氏（生物学科昭和43年卒）と西園幸久氏（地学科55年卒）にお引き受け頂くことになりました。

ところで、南キャンパスでは地震被災による建て替え工事が進んでいた工学部1号館がこの3月に完成して大型の校舎復旧工事はほぼ終了しましたが、五高記念館や化学実験場、工学部研究資料館などはまだ復旧の途上にあります。また、年末には実験室火災や漏水事故が発生し、改めて教職員一同、安全管理の徹底に気を引き締めているところです。

2019年には、理学部70周年記念祝賀会や記念誌発行の計画もありますので、今後ともご指導とご協力のほど、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

理学部同窓会庶務
寺本 進（生物学科昭和57年卒）



理学部退職者慰労歓送会
(左から井上先生、長谷中先生、高宮先生)



平成30年度 熊本大学卒業生表彰（理学部同窓会）平成30年11月4日
前列右から長谷氏、入江氏